製品名：ECSTER BP シュプレームエクレ

# 安全データシート

作成：2024/04/01

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称

| | | | |
|---|---|---|---|
| 製品の名称 | ECSTER BP シュプレームエクレ | | |
| 用　途 | 液体カーワックス | | |
| 供給者の会社名称、住所及び電話番号 | | | |
| 供給者の会社名称 | モリブデンビーピー株式会社 | | |
| 住所 | 〒596-0826 大阪府岸和田市流木町 128-1 | | |
| 担当部署 | 開発技術部 | | |
| 電話番号 | 072-428-2403 | FAX 番号 | 072-428-2450 |
| 緊急連絡先 | 同上 | 改訂 | 2024/04/01 |

## 2. 危険有害性の要約

GHS 分類

| | |
|---|---|
| 物理化学的危険性 | |
| 引火性液体 | ：区分外 |
| 健康に対する有害性 | |
| 急性毒性（経口） | ：区分4 |
| 急性毒性（経皮） | ：区分4 |
| 急性毒性（吸入：気体） | ：分類できない |
| 急性毒性（吸入：蒸気） | ：区分4 |
| 急性毒性（吸入：粉塵、ミスト） | ：区分外 |
| 皮膚腐食性・刺激性 | ：区分4 |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | ：区分1 |
| 呼吸器感作性 | ：分類できない |
| 皮膚感作性 | ：区分1B |
| 生殖細胞変異原性 | ：分類できない |
| 発がん性 | ：分類できない |
| 生殖毒性 | ：区分2 |
| 特定標的臓器・全身毒性（単回暴露） | ：区分1（肝臓、腎臓、中枢神経系、血液系） |
| 特定標的臓器・全身毒性（反復暴露） | ：区分2（血液系、肺、脾臓、舌） |
| 吸引性呼吸器有害性 | ：区分外 |
| 環境に対する有害性 | |
| 水生環境有害性（急性） | ：区分外 |
| 水生環境有害性（慢性） | ：区分外 |

＊上記に記載の無い項目については、分類対象外もしくは、分類できない

GHS ラベル要素



注意喚起語　危険

危険有害性情報
- 飲み込んだり、皮膚に接触したり、吸入すると有害
- 皮膚刺激
- アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- 重篤な眼の損傷
- 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
- 臓器の障害
- 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】　使用前に SDS/取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入をしないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を取り扱う時に、飲食または喫煙をしないこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
指定された個人用保護具を使用すること。

【応急措置】　吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は医師の診断／手当を受けること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。
暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断／手当を受けること。

【保管】　直射日光を避け、涼しい場所に保管すること。

【廃棄】　内容物や容器は、法律･各自治体の条例に基づき廃棄すること。

## 3. 組成、成分情報

単一製品、混合物の区分　混合物
化学名又は一般名　液体カーワックス
成分及び含有量

| 成分名 | CAS No. | 含有率 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 変性シリコーン | － | 5.0～5.5% | |
| モノグリセリン脂肪酸 | 31566-31-1 | 1.0～1.5% | |
| イオン化水 | － | 93.0～94.0% | |
| 労働安全衛生法 | 非該当 | | |
| PRTR 法 | 非該当 | | |

## 4. 応急措置

吸入した場合　新鮮な空気の場所に移動させ、身体を毛布などで被い、保温して保つ。必要に応じて医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合　汚染された衣服・靴などを速やかに脱ぎ、多量の水または微温湯と石鹸で付着した部分を洗い流す。加熱状態の製品が触れた場合は、洗浄した後に火傷に対する措置を行なわなければならない。また、水疱、痛みなどの症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受ける。

目に入った場合　清浄な水で十分に目を洗浄した後、直ちに眼科医の診断を受ける。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。コンタクトレンズ着用の場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。

飲み込んだ場合　無理に吐かせないで、直ちに医師の診断を受ける。無理に吐かせるとかえって肺への吸引などの危険性が増す。口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗浄する。

最も重要な徴候及び症状に関する簡潔な情報　飲み込むと下痢、嘔吐する可能性がある。
目に入ると炎症を起こす可能性がある。
皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。
ミスト・蒸気を吸入すると気分が悪くなることがある。

## 5. 火災時の措置

| | |
|---|---|
| 消火方法 | 本品は不燃性である。 |
| 消火剤 | 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、水、霧状の強化液などが有効。 |

## 6. 漏出時の措置

| | |
|---|---|
| 人体に対する注意事項 | 除去作業の際には必ず適切な保護具を着用する。大量の場合、漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。 |
| 環境に対する注意事項 | 流出して製品が河川・下水道等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 |
| 除去方法 | 漏出源を遮断し、漏れを止める。少量の場合には土砂、ウエス等で吸着させて空容器に回収し、その後を完全にウエス等で拭き取る。大量の場合には、漏洩した液を土砂などでその流れを止め、安全な場所に導いた後、出来るだけ空容器に回収し、河川・下水道等に排出されないように注意する。 |

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

| | |
|---|---|
| 技術的対策 | 全体換気型換気装置及び局所排気型換気装置、洗眼設備を設置する。 |
| 取扱者の暴露防止 | 取扱には適切な保護具を必ず着用し直接の接触を避ける。また、口の中に入れたり飲んだりしてはならない。 |
| その他の注意 | 常温で取扱うものとし、その際、水分、きょう雑者の混入に注意する。また、取扱の都度容器を必ず密栓する。 |
| 安全取扱い注意事項 | 空容器に圧力をかけてはならない。圧力をかけると破裂することがある。 |

保管

| | |
|---|---|
| 適切な保管条件 | 直射日光を避け、涼しい場所に保管すること。また、0℃以下に下がる場所を避けて保管すること。 |

## 8. 暴露防止及び保護措置

| | |
|---|---|
| 設備対策 | 通常、特別な設備対策はとらない。 |

許容濃度

| | | |
|---|---|---|
| 管理濃度 | 規定なし（作業環境評価基準：労働省告示２６号、平成７年３月 27 日） | |
| 許容濃度 | 日本産業衛生学会 | 設定されていない。 |
| | ACGIH | 設定されていない。 |

保護具

| | |
|---|---|
| 呼吸器の保護具 | 呼吸用保護具を着用する。 |
| 手の保護具 | 保護手袋を着用する。 |
| 目の保護具 | 飛沫が飛ぶ場合には、普通型眼鏡を着用する。 |
| 皮膚、身体の保護具 | 耐油性の長袖作業衣、安全靴を着用する。濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。 |
| 適正な衛生対策 | 作業中は飲食、喫煙をしない。休憩場所には、手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗う。また休憩場所には、手袋等の汚染された保護具を持ち込んではならない。 |

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

| | |
|---|---|
| 形状 | 液体 |

| | |
|---|---|
| 色 | 微濁白半透明液体 |
| 物理的状態が変化する温度 | |
| 沸点 | 100℃ |
| 引火点 | 引火性なし |
| 発火点 | 発火性なし |
| 溶解性 | 水に可溶 |
| 融点 | -5℃以上 |
| 比重 | 0.99～1.00 |

## 10.安定性及び反応性

| | |
|---|---|
| 安定性 | 常温・常圧で安定。 |
| 発火性 | なし |
| 酸化性 | なし |
| 自己反応性・爆発性 | なし |
| 混合危険物質 | 強酸、強アルカリの接触により重合あるいは分解が起こる。 |
| その他 | データなし |

## 11.有害性情報

| | |
|---|---|
| 皮膚腐食性 | なし |
| 刺激性（皮膚、眼） | 弱い刺激性あり |
| 感作性 | データなし |
| 急性毒性 | ラット LD50　5g/以上（推定値） |
| 発がん性 | データなし |
| その他 | データなし |

## 12.環境影響情報

| | |
|---|---|
| 分解性 | データなし |
| 蓄積性 | データなし |
| 魚毒性 | データなし |
| その他 | データなし |

## 13.廃棄上の注意

| | |
|---|---|
| 残余廃棄物 | 事業者は残余廃棄物を自ら処理するか又は知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。 |
| 焼却する場合 | 安全な場所で、かつ、燃焼又は爆発によって他に危害又は損害を及ぼす恐れのない方法で行なうとともに、見張り人をつける。その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。 |

## 14.輸送上の注意

| | |
|---|---|
| 国連分類及び国連番号 | 分類対象外 |
| 国内規制 | 国内法に従う。 |
| 陸上輸送 | |
| 輸送の特定の安全対策及び条件 | 輸送前に容器の破損、腐食、漏れのないことを確認する。転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行なう。容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。 |

## 15.適用法令

| | |
|---|---|
| 消防法 | 非危険物 |
| 労働安全衛生法 | 該当物質なし |

| | |
|---|---|
| PRTR 法 | 該当物質なし |
| 毒物・劇物取締法 | 該当物質なし |

## 16.その他の情報

引用文献

1．許容濃度の勧告（2008）日本産業衛生学会
2．Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices, ACGIH(2008)
3．中央労働災害防止協会ホームページ
4．独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）
5．製品安全データシートの作成指針（改訂 2 版）

記載内容の取扱い

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性に関してはいかなる保証をなすものではありません。また、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。本製品安全データシートは、本製品の通常の取扱いを対象とし、安全な取扱いの参考情報として、取扱う事業者に提供されるものです。取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。

# [会社情報]

販売者：新鳥取スズキ
所在地：鳥取市五反田3番地
TEL:0857-31-6960